

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-28436

(43) 公開日 平成9年(1997)2月4日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 B 25/28			A 4 5 B 25/28	
B 6 5 D 33/00			B 6 5 D 33/00	Z

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-224132

(22) 出願日 平成7年(1995)8月31日

(31) 優先権主張番号 特願平7-116054

(32) 優先日 平7(1995)5月15日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 596124405

池田 貴裕

伊丹市伊丹2-5-14

(72) 発明者 出口 孝信

大阪市住吉区万代東3丁目4-26-503

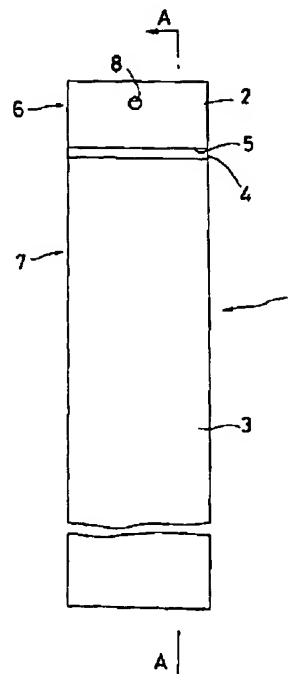
(74) 代理人 弁理士 井上 勉

(54) 【発明の名称】 傘 袋

(57) 【要約】

【課題】 傘からずり落ちるのを確実に防止できる傘袋を提供する。

【解決手段】 前面フィルム部2、3と後面フィルム部4とよりなる傘袋1の前面フィルム部2、3間に開口部5を形成するとともに、この開口部5の上方の前面フィルム部2と後面フィルム部4とにより上部袋部6を形成し、この上部袋部6に傘の傘骨先端部を引っ掛けるようにする。この引っ掛け部として、帯状フィルム部もしくは孔を設けるようにしても良い。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 前面フィルム部と後面フィルム部とよりなり、上部に開口部が形成されてなる傘袋において、前記開口部近傍の前面フィルム部もしくは後面フィルム部に、当該傘袋内に収納される傘の傘骨先端部を引っ掛ける引っ掛け部を設けることを特徴とする傘袋。

【請求項2】 前記引っ掛け部は、前記前面フィルム部に形成される開口部の上方に設けられ、この前面フィルム部の上部と前記後面フィルム部の上部とにより形成される上部袋部であることを特徴とする請求項1に記載の傘袋。

【請求項3】 前記引っ掛け部は、前記前面フィルム部に形成される開口部の上方に設けられてその前面フィルム部の一部を構成する帯状フィルム部であることを特徴とする請求項1に記載の傘袋。

【請求項4】 前記引っ掛け部は、前記開口部近傍の前面フィルム部もしくは後面フィルム部に形成される孔であることを特徴とする請求項1に記載の傘袋。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、傘袋に関し、より詳しくは前面フィルム部と後面フィルム部とよりなり、上部に開口部が形成されてなる傘袋に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】雨降りの日において、例えばデパートやスーパーなどの商店の入口には、顧客が持参する傘のしずくによって店内が汚れないように、あるいは他の顧客の迷惑にならないように、濡れた傘を収納するための傘袋が備付けられる。この傘袋としては、前面フィルム部と後面フィルム部とよりなる合成樹脂製フィルムを上縁部が開口するように袋状に形成した形のものが最も一般的である。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の傘袋の形状では、上縁部に開口を有する単純な形状であるために、傘が濡れているうちは水分が媒介となって傘袋の内面に傘が密着しているものの、傘が乾いてくるとその密着性がなくなってくる上に、図7に示されているように傘袋100の底部に傘101から滴り落ちてきた水102が溜まり、この水の重力により傘袋100がずり落ちて店内通路に落下するという問題点がある。このように傘101から傘袋100がずり落ちると、店内の美観を損なうだけでなく、店内通路が濡れて滑り易くなったり、ずり落ちた傘袋100を人が踏むことによって転倒事故を引き起こす危険性がある。

【0004】本発明は、このような問題点を解消することを目的として、傘からずり落ちるのを確実に防止することのできる傘袋を提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段および作用・効果】前述の目的を達成するために、本発明による傘袋は、前面フィルム部と後面フィルム部とよりなり、上部に開口部が形成されてなる傘袋において、前記開口部近傍の前面フィルム部もしくは後面フィルム部に、当該傘袋内に収納される傘の傘骨先端部を引っ掛ける引っ掛け部を設けることを特徴とするものである。

【0006】本発明の傘袋は、開口部からその傘袋内に傘を収納した後、この傘の傘骨先端部を引っ掛け部に引っ掛けて使用される。この傘袋によれば、底部に水が溜まってその傘袋が下方へ引っ張られても傘骨に引っ掛かってずり落ちることがない。こうして、水の入った傘袋が床の上に落ちて床を濡らして滑り易くなったり、ずり落ちた傘袋を人が踏むことによる転倒事故の発生を回避することができる。

【0007】前記引っ掛け部としては、前記前面フィルム部に形成される開口部の上方に設けられ、この前面フィルム部の上部と前記後面フィルム部の上部とにより形成される上部袋部であっても良いし、前記前面フィルム部に形成される開口部の上方に設けられてその前面フィルム部の一部を構成する帯状フィルム部であっても良いし、あるいは前記開口部近傍の前面フィルム部もしくは後面フィルム部に形成される孔であっても良い。

【0008】本発明の他の目的は、後述される詳細な説明から明らかにされる。しかしながら、詳細な説明および具体的実施例は最も好ましい実施態様について説明するが、本発明の精神および範囲内の種々の変更および変形はその詳細な説明から当業者にとって明らかであることから、具体例として述べるものである。

## 【0009】

【発明の実施の形態】次に、本発明による傘袋の具体的実施例について、図面を参照しつつ説明する。

【0010】(第1実施例)本発明の第1実施例に係る傘袋の正面図が図1に、この図1のA-A線断面図が図2にそれぞれ示されている。本実施例の傘袋1は、上部前面フィルム部2と下部前面フィルム部3とよりなる前面フィルム部と、後面フィルム部4とにより袋状に形成されてなり、これら上部前面フィルム部2と下部前面フィルム部3との間に矩形形状の開口部5が形成されてなるものである。こうして、上部前面フィルム部2と後面フィルム部4の上部とにより上部袋部6が形成され、下部前面フィルム部3と後面フィルム部4の下部とにより下部袋部7が形成されている。

【0011】また、この傘袋1には、図示されない支持軸に挿通してその傘袋1を吊り下げるために、前記上部前面フィルム部2と後面フィルム部4の上部とを貫通する貫通孔8が設けられている。このように貫通孔8により吊り下げられている傘袋1を使用する際には、この傘袋1を手で下方に引っ張ることにより、あるいは傘袋保持装置の上部から傘を挿入してその傘袋保持装置内の係

合爪により傘袋1が下方に引っ張られることによりその貫通孔8の上方のフィルムが引き破られる。

【0012】この傘袋1は、開口部5を開けた状態で樹脂のブロー成形により一体成形される。なお、このように一体成形ではなく、端縁部もしくは側縁部を熱融着することにより袋状に形成しても良い。

【0013】この傘袋1の使用に際しては、図3に示されているように、折り畳まれた傘9を開口部5から傘袋1の下部袋部7内に挿入し、次いで傘骨の先端部10を上部袋部6内に引っ掛ける。こうして、傘袋1内に水11が溜まってその傘袋1が下方に引っ張られても、傘骨の先端部10が上部袋部6に引っ掛かってその傘袋1がずり落ちることがない。したがって、傘袋1が床の上に落ちて滑り易くなったり、ずり落ちた傘袋1を人が踏むことによる転倒事故の発生を未然に防ぐことができる。

【0014】本実施例においては、開口部5を前面フィルム部の全幅に亘って設けるものとしたが、この開口部は前面フィルム部の中央部のみに設けることもできる。図4(a)(b)には、このように中央部に開口部5a, 5bを形成してなる傘袋1a, 1bがそれぞれ示されている。この場合、開口部の形状は、図4(a)に示されるように矩形であっても良いし、図4(b)に示されるように円形であっても良い。

【0015】(第2実施例)前記第1実施例では、上部袋部6により傘骨を引っ掛けるものとしたが、本第2実施例では、図5に示されているように、第1実施例における上部前面フィルム部2を帯状に形成して帯状フィルム部12とし、この帯状フィルム部12により傘骨の先端部を引っ掛けるように構成されている。この場合、貫通孔8'は後面フィルム部4のみに形成される。このような構成によっても、前記実施例と同様の作用効果を奏するものである。

【0016】(第3実施例)本実施例においては、上部袋部6(第1実施例)も帯状フィルム部12(第2実施例)も設けず、図6に示されているように、開口部5cの上方の後面フィルム部4に孔13を形成し、この孔13により傘骨の先端部を引っ掛けるように構成されている。なお、この孔13の形状は、図示のような矩形に限らず、円形、楕円形等いろいろな形状とすることができ

る。

【0017】なお、本実施例において、前面フィルム部および後面フィルム部を同形状にするとともに、これら前面フィルム部および後面フィルム部の上端縁に開口部を設け、この開口部の下方の前面フィルム部もしくは後面フィルム部のいずれか一方または両方に傘骨引っ掛け用の孔を設ける変形例も可能である。

【0018】前述のように、本発明は、種々に変更可能なことは明らかである。このような変更は本発明の精神および範囲に反することなく、また当業者にとって明瞭な全てのそのような変形、変更は、請求の範囲に含まれるものである。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、第1実施例による傘袋の正面図である。

【図2】図2は、図1のA-A線断面図である。

【図3】図3は、第1実施例による傘袋を傘を収納した状態で示す図である。

【図4】図4(a)(b)は、第1実施例の変形例を示す正面図である。

【図5】図5は、第2実施例による傘袋の正面図である。

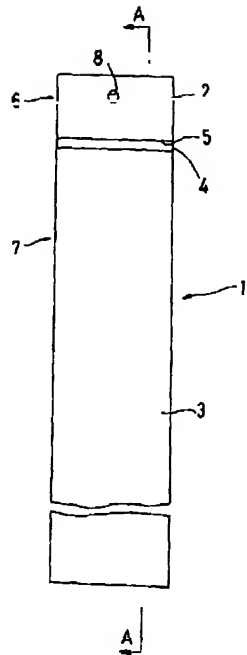
【図6】図6は、第3実施例による傘袋の正面図である。

【図7】図7は、従来の傘袋を傘を収納した状態で示す図である。

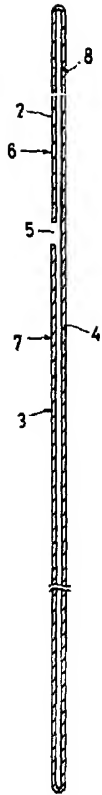
#### 【符号の説明】

- 1, 1a, 1b 傘袋
- 2 上部前面フィルム部
- 3 下部前面フィルム部
- 4 後面フィルム部
- 5, 5a, 5b 開口部
- 6 上部袋部
- 7 下部袋部
- 9 傘
- 10 傘骨の先端部
- 12 帯状フィルム部
- 13 孔

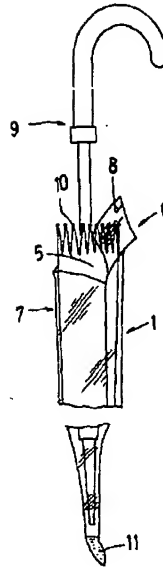
【図1】



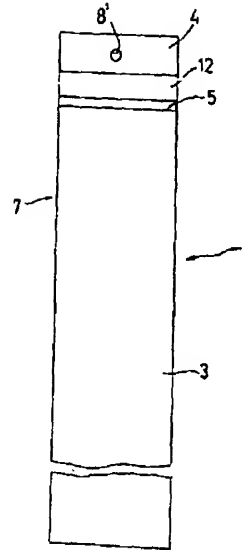
【図2】



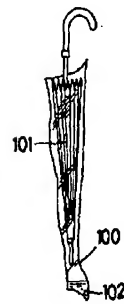
【図3】



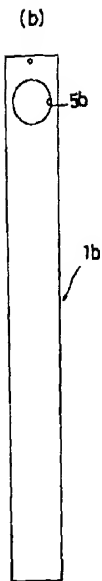
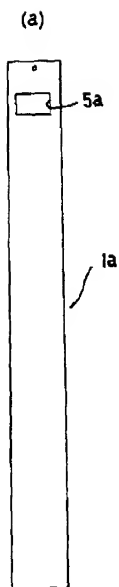
【図5】



【図7】



【図4】



【図6】

